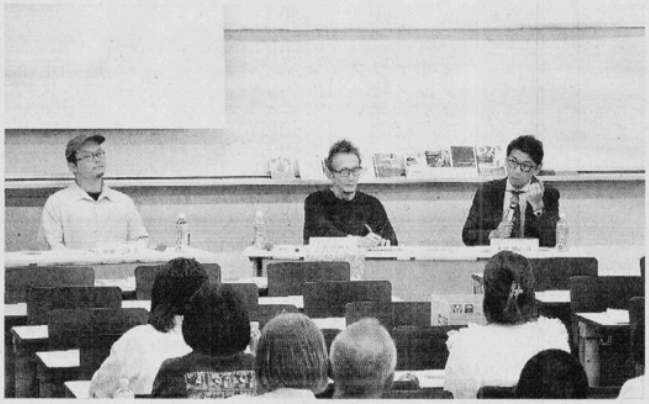
誰もが集える場つくろう

高知市 共生社会シンポに120人



地域共生社会のつくり方について学んだシンポジウム（高知市永国寺町の高知県立大学）

地域共生社会について考えるシンポジウムがこのほど、高知市の高知県立大学永国寺キャンパスで開かれ、約120人の聴講者が誰もが集える魅力的な場や人間関係のつくり方について学んだ。

同大学は2024年度から「リ・デザインプロジェクト」として、学生や教員が地域に入り、若者や高齢者、認知症の人ら、誰もがつながれる関係づくりを支援。毎年度、シンポジウムを開き、事例紹介などを行っている。20日は地域と人をコーヒーでコーディネートする「コーヒィネーター」の藤田一輝さん（34）＝香川県丸亀市＝が、「まちとの関わり方の見つけ方」と題して講演した。

藤田さんは、コーヒーを楽しみながら「棚主」になって好きな本を売ることができる「シェア型書店」を経営。「『まちのため』や『みんなのため』と言うが、具体的に誰のためか分からない。活性化ではなく関わり方を探そう、と考えた」と説明。自分が面白がって考えた企画に、多様な人が集まっている経験から、「好きなことをやった結果が誰かの暮らしやすさにつながり、まちが良くなればいい」と述べた。

同大の教授2人とのパネル討議では「お金を落とすことではなく、住んでいる人の心が潤うことが大切」「藤田さんのような取り組みを積み重ねれば、過疎地でも住みやすい場をつくれるのではないか」といった意見が出た。（谷川剛章）

2026年9月27日高知新聞掲載記事